

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日 2014年7月17日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修4年次

氏名：佐々木 美祐

派遣先大学名：ハイファ大学(イスラエル)

在籍身分：交換留学生

渡航年月日：2013年10月5日

帰国年月日：2014年6月12日

○派遣先大学における授業等の履修状況

講義名	履修期間	講義時間/週	修得単位	備考
ヘブライ語	秋・春学期	8時間	8単位	
英語読解	秋・春学期	4時間	4単位	
戦争と和解の心理学	秋学期	3時間	3単位	
聖書・完成への魂の旅・	秋学期	3時間	3単位	
時事イスラエル	秋学期	3時間	0単位	聴講のみ
聖書・世界の終末への旅・	春学期	3時間	3単位	
アラブ思想	春学期	3時間	0単位	聴講のみ
アラブとイスラエルの関係	春学期	3時間	0単位	聴講のみ

*秋学期：2013年10月から2014年1月

*春学期：2014年2月から2014年5月

*聴講のみ：授業を聴講するのみで、教員の評価を得なかったということ。

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

大学の講義で学んだことを振り返ると、大きく3つに分けることができます。その三つは、言語、宗教、歴史です。またそれらは互いに関わりあっています。わたしはイスラエルの公用語のひとつであるヘブライ語を学びました。ヘブライ語は、キリスト教、ユダヤ教、イスラームの聖典である旧約聖書が書かれた言語です。一度は話し言葉としては使われなくなってしまったヘブライ語ですが、20世紀に再生されました。私が学んだのは再生された後の現代ヘブライ語なので、そのまま聖書ヘブライ語が理解できるわけではありません。しかし、秋・春学期を通して履修していたユダヤ教ラビによる旧約聖書の授業で、聖書ヘブライ語で読むコツを学ぶことができました。これからは原語であるヘブライ語で少しずつ旧約聖書を読み、理解を深めていきます。

大学の休み時間の風景

聖書を理解することは、宗教を理解することにつながります。ただし、同じ聖書であっても、宗教によって、または1つの宗教の中でも解釈が異なったりします。またそれぞれの宗教が旧約聖書以外にも聖典を持っています。これからは他の宗教も理解するために、解釈の違いに注目し、他の宗教の聖典も読んでみたいのです。



聖典と呼ばれるもので、私が読んだことのあるのは聖書(旧約聖書、新約聖書)です。その聖書の舞台となっている地で、学ぶことができたことは本当に夢のような経験でした。聖書には、世界の始まりや終わりのこと、歴史、予言、福音、日々の糧となる言葉など様々な内容が記されています。歴史書としては、日本でいう古事記のような存在かもしれませんが、ユダヤ人にとっての旧約聖書の方がもっと人々に親しまれ、現在の生活にも影響を与えているという感じがしました。ユダヤ人の祝日は先祖がたどってきた歴史を振り返るように祝われたりすることからです。また、聖書で予言として書かれていたことが成就したり、今まさに成就していたりもします。これからは、歴史と聖書を照らし合わせることで、聖書とこの世界で起きていることへの理解を深めていきたいです。

原語で聖書を読み、様々な解釈もある中でどれが正しい解釈なのか見極めることは、おそらく一生かかっても終わらないことでしょう。わたしは卒業研究という、興味のあることにじっくり取り組むことのできる機会を、一生の研究につながるスタートとして、大切に進めていきたいです。しかし、時間がかかる研究だとわかっていながらも、できるだけ早く知りたいという思いもあります。なぜなら、まさに今が、聖書の予言が成就している時だからです。中東で根深く続いている対立がまさにその中心でもあります。

帰国して一か月がたちますが、この一か月でイスラエル情勢は激化しました。ユダヤ人とパレスチナに住むアラブ人、また周辺のイスラエルを敵対視する諸国を巻き込んでの対立が、アラブ人によるユダヤ人青年の誘拐事件を境に一層高まっています。自分が暮らしていた町が、訪れた町が、友人の住んでいる町が、空港が、攻撃の標的となり、一か月前とは全く違う緊張感に包まれています。ニュースで見覚えのある街並みが映るたび、心が痛みます。さらに悲惨なのは、ニュースでは伝えきれていない隠れた対立があることです。それを知らずに見たままを信じ、偏向した意見を持つことで、ますます双方の溝は深まってしまいます。いわばメディア戦争と言っている人もいます。いま私ができることは、イスラエルで学んできたことを多くの人に伝え、自分自身も研究し続け、そして、平和を祈ることだと思います。将来は、イスラエルで起こっていること、またそのできごとと聖書の関係を証明しながら、メディアが公平で偽りのない情報を伝えることのできる社会になるように貢献したいです。

○生活面について

ニュースで見るイスラエルの映像はほとんど戦場ばかりです。もちろんそれらは否定することのできない現状の一部です。しかし、イスラエルは1948年の建国以来、セキュリティの強化、高度な灌漑技

ハイファ大学からの景色



術による農業、ハイテク産業等目覚ましく発展してきました。生活していて困ることもほとんどありませんでした。私が見たイスラエルの多くは美しく、人々の笑顔にあふれていました。イスラエルは2000年も願ってきた建国、そしてその約束の地への帰還を果たし、多くの問題はありながらも前向きに歩んでいます。

イスラエルで戸惑ったことと言えば、コミュニケーション方法の違いです。イスラエルでは、とにかく話した者勝ちです。わたしは、人に何かを話す前に本当にこれを話すべきか、どのタイミングで切り出そうかと考えることが多いです。しかし、イスラエルでそれをしていて、考えているうちに次の話題へと移ってしまいます。また大学などに要求があるときや、マーケットでの交渉の場面でも、まず言葉に出すことが大切です。遠慮をしてためらっていると、チャンスを逃してしまいます。最初はそのスピード感に驚くばかりでした。しかし、とにかくまず言葉にするように心がけていると、親身になって話を聴いてくれ、自分の考えも伝えてくれます。裏表なくすべてを話してくれることが気持ちよくもあり、信頼にもつながりました。また、イスラエルの人はとにかくダンス好きで、大学構内の広場でも音楽が流れ、休み時間にダンスで盛り上がることもありました。

寮は6人のシェアルームでした。2人部屋が3つあり、キッチンやシャワーなどは6人で共有していました。寮に住むのは初めてだったので、最初は緊張していましたが、今では、



ルームメイトがヘブライ語を教えてくれたことや、帰宅後ご飯を食べながら1日のことを話す時間、夜遅くまで話したり、歌ったり、映画を見たりした時間が恋しいです。わたしはクリスチャンで、部屋員のほとんどはユダヤ教徒でしたから、宗教の話をすることも多々ありました。

食生活は自炊でしたが、スーパーマーケットで日本の

ベドウィンのおもてなし

調味料なども手に入ったので、困ることはありませんでした。しかし、ユダヤ人はコーシャーという食事に関する掟を守っているのです。共に生活する以上、私もコーシャー生活でした。具体的には、豚肉禁止、ミルクと肉類を一緒に調理してはいけないことなどです。このような掟は、すべて旧約聖書に書かれているものです。2000年もの間世界に離散し、迫害も受け続けたユダヤ人ですが、それぞれの場でコーシャー以外の掟やお祭りなども守り、継承しているのです。

また、ハイファには世界各国から留学生が学びに来ています。ヨーロッパ出身の友人も増え、冬休みにはヨーロッパ旅行もすることができました。夕食を共に作って食べることもよくありました。食事中イスラエル情勢について語ることもあり、様々な視点からの意見が出て、とても有意義な時間でした。

留学生は、中東情勢を専門にしている学生も多く、講義はとてもハイレベルなものでした。わたしは授業についていくのが精いっぱい、知識もあまりありませんでした。日本人留学生も1学期は私一人だけで、不安ばかりでした。しかし、こんな私だからこそ、わからないことは聞いてねと手を差し伸べてくれる友人が与えられ、先生方もよく気遣ってくださったことはとても感謝でした。他の町に住んでいる日本人のボランティアの方々や、ジャーナリストの方ともつながりを持つことができました。こうした出会いを通して、様々な生き方を知ることができ、将来を考えるきっかけにもなりました。

○その他留学全般にわたる感想

私は秋田大学で、大学生協の英会話や、The ALL Roomsのスタッフをやらせていただいていたこともあり、日本の英語教育について考えることがありました。イスラエルは英語圏ではありませんが、英語ができなければ大学進学はできません。大学に入学した後も、英語の文献を読むことができるなど、一定のレベルに達するまで、徹底した英語教育があります。学生は必要に迫られて英語を勉強するのですが、それ以前に小さいころから英語のアニメやドラマ、音楽などに慣れ親しんでいる人が多く、大学生になってもそうして英語を楽しんでいます。日本の大学も、学生がそのような英語を楽しむ心を育むことができる環境になればいいと思いました。私自身も、英語を学びたいと思ったきっかけは、英語そのものではなく、大好きな音楽でした。日本は、英語ができなくても十分に人生を楽しむことのできる国です。しかし、私は英語ができるようになることで、どんな分野においても、よりいっそう興



味を深めていくことができると思います。スタートは小さなことでも、その先は無限です。留学中、学んだことで大きかったことは、一人孤独に静まって考えをめぐらす時間が、人生においてどれだけ大切かということです。わたしは今まで、人に囲まれていることが好きでした。しかしそれは、ただ世の中の流れに調子を合わせているだけの浅はかな生き方だったと気づきました。人との交わりを断つことがよいというのではなく、孤独の中で考え、計画することで、自分の行動を吟味できるし、相手の気持ちも考えることができ、責任を持つこともできると思います。聖書にもこんな言葉があります。「この世と調子を合わせてはいけません。いやむしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」留学中、大学での学業も充実していたのですが、一番私に力と知恵を与えてくれたのは、聖書の教えでした。その中心舞台となっているイスラエルで学ぶことができたことに、本当に感謝しています。



聖地エルサレム